



第6回

北九州無法松ツーデーマーチに参加

九月二十三日（日）「第六回北九州無法松ツーデーマーチ」のウォーキング大会が開催されました。「さわやか」は、第二回「さわやかあるこうかい」として参加しました。

本大会は日本ウォーキング協会、福岡県ウォーキング協会等の主催と北九州市などの協賛で開催されました。全国から七千名を超える方々が参加する「国際市民スポーツ連盟等公認のウォーキング大会」です。

「さわやか」事務局とボランティアさん十一名で参加してきました。

コースは四十キロ、二十キロ、十キロ、五キロとあり、ウォーキング初心者の「さわやかあるこうかい」メンバーは五キロコースにチャレンジしました。

地図を片手に持ち、リュックサックには途中の休憩所の給水用にマイコップをぶら下げて十時に出発しました。

給水所にあったアイスと

バナナ美味しかった

スタートとゴールは各コースとも北九州市庁舎前の勝山公園で、無法松記念碑、森鷗外旧居、チャチャタウン、参勤交代往還、祇園太鼓像、

「あなたにもできるよ、障害者の人権

啓発ファシリテーター養成講座」に参加

北九州市障害福祉団体連絡協議会 主催

九月二十日（木）十時から北九州市役所八階八十三会議室にて、北九州市障害福祉団体連絡協議会（以下障団連）の主催で平成二十四年度人材養成講座として「あなたにもできるよ、障害者の人権啓発ファシリテーター養成講座」がありました。障害福祉課より坂元光男課長と矢野係長にも時間を

常盤橋、リバーウォーク、八坂神社、小倉城、松本清張記念館を巡るファミリールコースに参加しました。

普段は車で素通りする町並みを改めて歩いてみると、新しい発見があり、町の中が新鮮に感じられました。

全員十一時三十分には勝山公園に無事に到着しました。仲間や家族で「健康の素晴らしさ」「北九州市の素晴らしさ」を再発見するた

めに、歩いてみませんかの言葉に感動し参加しましたが、普段鍛えておられるボランティアさんには物足りなかつた事と思います。

「来年は十キロに挑戦しましょう！」を合言葉に十二時に解散しました。

新若戸道路（トンネル）開通記念

ウォーキングに参加して

八幡事業所ボランティア 加峯 東樹

八月二十六日（日）海底トンネルを歩いてきました。受付時間ギリギリで急ぎ足で歩いたのでトンネル入り口までに汗ビツシヨリでした。

トンネルは一五〇〇mですが意外と短く感じました。



いでしょうか。

学習会などの場において、参加者から意見が出るように促し、全体の状況を見ながらプログラムを進行して行く人のことをいいます。

はじめに障団連の古賀事務局長より挨拶があり、引き続き田中氏より「国の方では障害者の差別を禁止する『障害者権利条約』に基づいて、議論がされていますが当事者や市民の方々には広まっ

ていないのが現状です。今日の目的としては

- ① 障害者の考え方や現状をおさえる。
- ② ワークショップの進め方を
- ③ 自分がファシリテーターをやってみようかなと思っ

ていたかどうかがあります」と述べられました。

講座の中で、ワークショップやロールプレイを体験し、プログラムに基づいてファシリテーターの役割

進行の仕方などを学んできました。

最後に参加者の方から次のような意見や感想がありました。

「ロールプレイをする場合など市民の方々に事前に各障害の特性をわかってもらえらるようには必要があると思えます。そうしないと、意見も出にくいと思います」

「いろいろな立場の人たちが入った方が問題に対しての反対の意見も出るだろうし、考え方も違うし、偏りが無くても良いと思います」

など多くの意見が出されました。

今回の講座で『障害者権利条約』の考え方を学び、それを周りの人々へ伝えて行く能力・技能を高めて行く事を学びました。

講座は十二時十分に終わりました。

北九州市障害者基幹相談支援センター

オープンセレモニー開催

九月二十九日（土）十三時三十分から、ウエルとばた二階多目的ホールにおいて、北九州市障害者基幹相談支援センターオープンセレモニーが開催されました。

北九州市障害者基幹相談支援センターとは、障害者手帳の有無にかかわらず、障害のある方がお困りの相談をワンストップで受け付け、最後まで寄り添い支援していく機関です。

これまでのように、相談者が、相談の項目ごとに窓口や担当者が変わることがなく、どこに相談に行ってもいいのかわからないというような事が無くなります。

生涯を通じ一貫した

支援体制の構築

この機関は、今年度からの北九州市障害者支援計画の中に盛り込まれており、基本目標の一つに「生涯を



通じ一貫した支援体制の構築」があります。

「障害のある人が安心して生活を送ることができるよう、乳幼児期から学齢期、青年期、高齢期までの一貫した支援を行うとともに、複数のニーズを持った障害のある人や家族などが利用しやすい相談体制を構築するなど、総合的なサービスの整備を進めます」という

「さわやか」と大島一博氏の

大島氏は昭和六十二年に当時の厚生省に入省されました。

その後、平成七年から三年間北九州市役所保健福祉局に転出されてこられました。

その時期に、「さわやか」の設立に大きく関わっていただきました。

「さわやか」が、北九州市身体障害者小規模共同作業所として開所することができたのも、当時の大島課

ものです。

このセンターは、公益社団法人 北九州市障害者相談支援事業協会が北九州市から委託を受けて運営されており。

このセレモニーには、北九州市議会や北九州医師会、自治会や警察関係者など、様々な分野から、約百五十名の方々がお祝いに集まりました。

「さわやか」からは、山田理事長と梶原常務理事、高原事務局長が参加しました。保健福祉局障害福祉部の古賀部長が開会の言葉を述べました。

また、北橋健治北九州市長が、主催者を代表してあいさつをされました。

深〜い？関係!?

長や、山田祐司係長（現障害者事業支援担当課長）のおかげなのです。

三人揃って、大島さんにご挨拶させていただきましたが、私たちは初めてお会いしたのにもかかわらず、快く応じていただきました。

当時の江頭さんや腎友会のことでも覚えていてくださいました。

そして何より十七年間もこの事業が続いていることに、

来賓の祝辞に続き、最後に北九州市障害者基幹相談支援センターの柳沢享センター長が、センターの概要を説明し、役員と職員の紹介がありました。

北九州市内を本部を含め四つの圏域に分け、地域アドバイザーを含め二十三人記念講演会

「障害のある人たちのための

より良い総合相談の構築に向けて」

講師に厚生労働省保険局保険課長 大島一博氏をお迎えし、「障害のある人たちのためのより良い総合相談の構築に向けて」と題して、記念講演会がありました。

大島氏は、障害者や高齢



厚生労働省保険局 保険課長 大島一博氏と山田理事長と梶原常務理事

大変驚かれ、とても喜んでいただきました。

現在の「さわやか」の状況も少しお話することができ、激励の言葉までいただきありがとうございました。写真撮影にも笑顔で応じていただき本当にありがとうございました。

で十月一日から業務を開始します。

また、このセンターは、十月一日から施行される「障害者の虐待防止、障害者の擁護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」により、障害者虐待防止センターの業務も行います。

その後、大島氏と、柳沢センター長の対談があり、お二人が出会ったところの話から、その頃の障害者施策の状況や現在の状況などを話されていました。

最後に質疑応答があり、十六時四十分を終了しました。

